

## 「ネットの問題は 心の問題」

### だからこそ 温かいつながりを！

最近では、何か事件が起きるたびに、その場に居合わせた人の携帯電話やスマートフォン、ドライブレコーダー等で撮影された映像が、全国に流されます。このことから情報通信機器が、私たちの生活の身近にあることがわかります。

町では、情報通信機器の使用に関わる問題に対応するため、携帯電話やスマホ、ゲーム機器の利用の仕方や親子の約束づくりについて、児童生徒・PTA・教育委員会で話し合い、平成27年2月に「情報モラルスマイル宣言」を制定しました。あれから三年余り、情報化のスピードは益々速まっています。

#### スマホ時代の子どものために

そこで今年度も、5月15日の「養老町人権教育研修会」に、兵庫県立大学環境人間学部の竹内和雄（たけうちかずお）准教授をお招きし、「スマホ時代の子どもの達のために」と題して、情報モラルに関する講演をしていただきました。

竹内さんは中学校での教員経験があり、子どもたちがなぜ問題行動を起こしてしまうのか、心が荒れている原因はなんなのかを突き詰めていったところ、ほぼ全ての事例に、情報通信機

器が大きく関わっていることが分かり、この分野の研究を始められました。

午前中は高田中学校、午後からは東部中学校において、中学生（一部小学生も）とその保護者に向けて講演をしていただきました。

代表生徒が竹内先生からの質問に答えていくなかで、現在の小中学生が興味を持っているアプリやゲーム、ツイッター等の利用状況が分かってきました。

夜の講演では、世間を賑わしているネットニュースやブログに投稿したために、人生が変わってしまった事例、出会い系サイトにアクセスしているリアルタイムの実況を見せていただくなど、情報通信機器利用の実情を知ることができました。

みなさんは、「デジタル・タトゥー」という言葉をご存じでしょうか。昨年度の「シリーズ人権8月号」でも紹介しましたが、「一度ネットに上げられた画像や文書は、一生消えることがない」ということを意味しています。ネットに画像などを上げることによって、自分だけでなく、家族や自分が関わっているすべての人たちにまで被害が及んでしまうことがあります。軽率なワンクリックが、人生を台無しにしてしまう恐れを含ん

でいます。

よく考えれば、ネット上に上げて良いかどうかは分かるはずですが、不適切な画像の送信やいじめなどの人権問題、個人情報流出などの事件はなくなりません。それは、「ネットの中の会話は、高揚感を高めていき、普段の自分からは想像できない行動をとってしまうから。だからこそ、ワンクリックする前に自分で落ち着いてよく考える必要がある。」と竹内さんはおっしゃいました。

また、「スマホ使用時間と学力」についての調査結果では、全体としては、使用時間が増えれば増えるだけ、テストの成績は下がっていきますが不思議なことは、「数学などでは、同じ時間勉強しても、スマホ使用時間がゼロ時間の子よりも、スマホ使用時間が一時間未満の子の平均点の方が高い」という結果が出たことです。これはどうしてかという点、スマホを使ったという気持ちを満たしつつ、自分で利用時間を決めてやめることができるからだそうです。

「軽率なワンクリック」と「スマホ使用時間と学力」の事例の共通点は、自分の気持ちをいかにコントロールできるかどうかということですが。

#### ネットの問題は心の問題

竹内さんは、「現実社会に満足している子は、情報機器の使い方や使用時間を決めて利用できている。ネットに依存してしまう若者の多くは、自分を支え見守ってくれる存在が身近にいない、目的を見失ってしまったり、孤独に感じてしまったりと、どんどん一人の世界にはまっていき、次第にネットの世界に自己存在感を求めていってしまっている。だからこそ、子どもを守るためには、ネットの問題は心の問題ととらえ、安心して過ごせる環境作りをしていくこと、良好な親子関係、相談できる信頼関係が大切なのだ」と話されました。

町情報モラル「スマイル宣言」の、保護者の五カ条の5に「家族ふれあいの時間を大切にし、子どもの居場所をつくります。」とあります。子どもを守るために、今一度、家庭を見つめ直し、子ども達との温かいつながりが保てているか、確かめてみる必要があると思います。

地域の中でも、子ども達への地域ぐるみの挨拶や温かい声かけを通して、子どもと大人とが温かいつながりがもてるよう、ご理解とご支援をよろしくお願ひします。